

韓国環境部プレスリリース 2020年3月13日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 356-366 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=wvonEO18wM8aSuPN41zeE8AN.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1352585&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月12日江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）上西面（サンソミョン）および華川邑（ファチョンウプ）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）旺澄面（ワンジンミョン）および漣川邑（ヨンチョンウプ）、坡州市（パジュシ）津東面（チンドンミョン）で発見された野生いのししの死体11個体からASFウイルスが検出されたと3月13日明らかにした。

□国立環境科学院は3月12日死体6個体からASFウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）145件、漣川郡（ヨンチョングン）127件、坡州市（パジュシ）72件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、合計366件の野生いのししASF陽性事例となった。

○野生いのししASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回ASFウイルスが検出された死体は全て広域フェンスの中で発見され、既存感染個体発見地域と100～600m近隣していた。他にも感染個体が存在するか確認するために徹底的に捜索している」と明らかにした。

以上